

2011年**11月3日** （木）
13:30～17:30

関連イベント（高校生及び一般の方対象）

10:00～12:30（開場 9:45）

参加無料（定員 180名）

下記のいずれかの方法で事前に
建築学会埼玉支所までお申し込み下さい。
※午前の部、午後の部、またはその両方の別を御明示の上、
ご連絡頂きます様よろしくご願ひ申し上げます。

E-MAIL: s_gakkai@zpost.plala.or.jp

TEL: 048-866-8257

FAX: 048-861-2384

□講演

●基調講演

中村 勉

「急ごう！原発を凌ぐゼロカーボン社会を」

（工学院大学教授 / 日本建築学会低炭素社会特別委員会代表 / JIA 環境行動ラボ代表 / 中村勉総合計画事務所所長）

日本の代表的な建築関係団体の環境行動のリーダーを務められ、環境省の「温室効果ガス削減目標を実現するための中長期ロードマップ」策定委員でもある中村勉教授から、環境行政の動向や日本の進むべき道、建築関係者に期待することなどについてご講演いただきます。

●講演

村上 敦

「ドイツを中心としたヨーロッパの超省エネ建築の動向報告と日本への提言」

（環境ジャーナリスト / フライブルク在住）

ドイツを中心とするヨーロッパの最新情報を、環境都市フライブルクから発信して日本を刺激し続ける環境ジャーナリストの村上敦氏から、最新情報と日本への提言についてご講演いただきます。

□パネルディスカッション

超省エネ化に向けた建築激動期を前に、日本の建築界の各分野（在来住宅、工業化住宅、一般建築）で先導的な活動をされている方々にお集まりいただき、緊急の課題や日本のあるべき姿について議論していただきます。

●パネリスト

太田 勇（株式会社ミサワホーム総合研究所 環境エネルギー研究室長）

熊野 直人（清水建設株式会社 環境・技術ソリューション本部 主査）

早田 宏徳（日本エネルギーパス協会代表理事 / マングロープクリエーション代表）

藪島 一弘（ハイシマ工業株式会社代表取締役）

埼玉の地元へ根付く建設会社としてパッシブハウス基準の住宅を実現。技術報告を京都工芸繊維大学大学院 准教授 芝池英樹氏が行います。

マテー・ペーター（自然の住まい株式会社代表取締役）

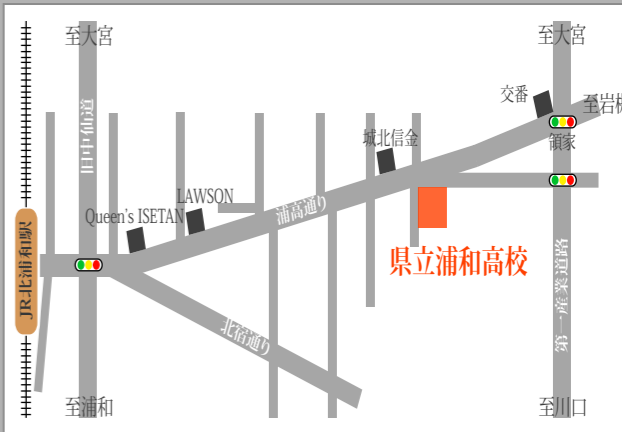
建築生物学の考えに従ったヨーロッパ基準の超高断熱住宅を日本で建設し続ける施工者。

●ファシリテーター

白江 龍三（環境建築家 / 前橋工科大学大学院非常勤講師）

埼玉県立浦和高校 **麗和会館**

埼玉県さいたま市浦和区領家 5-3-3



J R 京浜東北線北浦和駅東口より徒歩 10 分
北浦和駅は新宿・東京より J R などで概ね 30 ～ 45 分

高校生及び一般の方を対象とした関連イベント

午前の部 10：00～12：30

□パネルディスカッション

「浦和高校のエコ改修の考え方と現状報告」

設計者の梶氏がエコ改修の考え方を説明した後、エコ改修やエコ社会の未来について会場も含めて皆で議論します。**環境問題に関心がある高校生全員集合！**

●パネリスト

梶 芳晴（梶芳晴建築設計研究所）浦和高校エコ改修の設計者

浦和高校在校生 エコ改修後の使い心地、住み心地、計測データなどの報告

●ファシリテーター

八代 克彦（ものづくり大学教授）

□講演

●講演 1

早田 宏徳

これから家を建てる方必見！

（日本エネルギーパス協会代表理事 / マングロープクリエーション代表）

“省エネ住宅伝道師”とも言べき活動をしている早田宏徳氏が、高校生やこれから住宅を建てようとする一般の人に向けて、住宅をゼロエミッション化する時に何が大切か、なぜ今高断熱住宅が重要なのか、どんなメリットがあるか、国際情勢の中でどういう意味を持つのかなど分かりやすく説明します。

●講演 2

太田 勇

（株式会社ミサワホーム総合研究所 環境エネルギー研究室長）

「ミサワホームのライフサイクル CO2 マイナス住宅

～ゼロエミッションの先を見据えて～ 」

今直ぐ買えるゼロエミッション住宅の事例として、ゼロエミッションを超える性能を誇る最新の LCCO2 マイナス住宅と今後のゼロエミッション住宅の展望について、高校生や一般の人に分かりやすく紹介します。

主催 / 日本建築学会埼玉支所 <http://news-sv.aij.or.jp/kcaij/s12/>

協賛 / 株式会社ミサワホーム総合研究所

後援 / 環境省関東地方環境事務所・埼玉県

（申請中）国土交通省・経済産業省エネルギー庁・日本建築家協会

ゼロエミッション建築の最前線

シンポジウム開催にあたって

環境省の「温室効果ガス削減目標を実現するための中長期ロードマップ」の最新の報告では、2015 年より温室効果ガス排出をネットでゼロにするゼロエミッション住宅の普及を開始し、2030 年以後は全ての新築建築及び新築住宅をゼロエミッション化することになっています。そして 2050 年には建築、住宅ともストックを含めて全てゼロエミッション化することとしています。

ゼロエミッション住宅の普及開始まであと 4 年と迫っており、社会全体が普及に向けて準備を始めるべき時期です。また、2050 年にストックを含めて全てゼロエミッション化することは、100 年以上の建築寿命を目指す我が国では、今日作る建築は全て改装によりゼロエミッション化できる骨格を持たなくてははいけません。従って、今日の建築活動は全てゼロエミッションを前提に行われるべきなのです。しかし一般の人にとってゼロエミッション建築は夢の世界のこのように思えますし、建築業界関係者の間ですら状況が認識されていません。

一方ヨーロッパの国々では、既にゼロ空調建築が可能なレベルの住宅の断熱性能を義務化している国もあり、今後数年の内にヨーロッパ全体が同様の傾向を強めるものと予想されます。先行事例では、建築で消費するエネルギーよりも生み出すエネルギーが多いプラスエナジー住宅や、それらを組み合わせた街区も実用に付されており、ゼロエミッションは夢ではありません。

また、ゼロエミッション建築は、とても快適な住環境が実現でき、健康促進の点でも有効である事が分かっています。昨今のエネルギー事情を考慮すると、遠からずコスト的にも優位であることが明確になると予想されますし、ドイツやスイスなどでは、建築の省エネ化などの対策が、経済政策的にも効果的であることが明らかになりつつあります。

このような状況の中で、日本においても様々なグループが建築の高度な省エネ化やゼロエミッションを目指して活動し、問題を乗り越えながら成果を上げつつあります。技術や人材、企業の意欲、建設業界の潜在的な実力などの点からすれば、日本は建築のゼロエミッション実現に最も近い国の一つです。しかし、社会的な気運の盛り上がり欠け、実施に向けた制度整備の不在など、本格的な取り組みに向けて障害があります。また、先進事例に取り組むグループ間でも、ゼロエミッションの概念や目標が共有されている訳ではありません。

本シンポジウムでは、中小工務店、工業化住宅、一般建築の各分野で先行して課題に取り組む方々に現状報告をしていただき、会場を含めた議論を通して目標を共有すると共に、共通する課題解決に向けた行動の契機にしたいと思ひます。また、一般の方々に対しては、ゼロエミッションが避けて通れないものであると同時に、既に手が届く存在であること、ゼロエミッションを実現するための技術は、環境への負荷を低減し維持費を節約できるだけでなく、快適性が高く健康的な生活環境を実現できる技術でもある事を知っていただく機会にしたいと考えています。

会場は、日本で最初にエコ改修を行った埼玉県立浦和高校です。本シンポジウム当日の午前には、高校生や一般の方を対象としたシンポジウムを併催します。ここではゼロエミッション建築の入門編とも言える浦和高校のエコ改修について浦和高校の生徒や設計者が報告すると共に、最新のエコ住宅の状況や環境の時代に向けて切迫した社会情勢、今すぐ買えるゼロエミッション住宅など、身近なエコ建築について専門家が分かりやすく解説します。